

箕輪町人口ビジョン

令和2年3月

箕輪町

目次

I 人口現状の分析

I-1	これまでの町人口の推移.....	1
I-2	1980年以降の大幅な人口増加.....	1
I-3	2005年以降は人口減少.....	2
I-4	依然として自然減 近年は社会増.....	2
I-5	平均寿命の伸び率は鈍化.....	3
I-6	近年は出生率が上昇.....	4
I-7	20歳代の出生率が県・郡平均を下回る.....	5
I-8	39歳までの女性人口の減少に合わせ出生数も減少.....	6
I-9	30歳未満・女性従業者の減少が顕著.....	6
I-10	近年は県内外ともに転入超過.....	8
I-11	外国人も増加傾向.....	8
I-12	若年層の県外転出傾向が続く.....	9
I-13	25～34歳は郡内市町村と転出入をやり取り.....	10
I-14	第1期人口ビジョンのチャレンジ目標に近づいている.....	11
I-15	箕輪町人口の自然増減と社会増減の課題.....	11

II 将来人口推計

II-1	近年の人口は横ばい.....	13
II-2	2015年実績人口は、社人研推計を下回る※.....	13
II-3	2025年推計人口は社人研推計で23,000人、町独自推計で24,300人の予測.....	14
II-4	出生数・転入者数の増加施策の実施で2025年に24,500人程度.....	14
II-5	2025年には合計特殊出生率を1.80に.....	15
II-6	移住定住対策により1年で50人、10年間で500人増加.....	15
II-7	箕輪チャレンジで取り組む施策.....	16
II-8	箕輪チャレンジで、15歳未満人口割合1割以上をキープ.....	17
II-9	区ごとの将来推計人口.....	18
II-10	社会移動がないと仮定すると2025年までに900人程度減少.....	19
II-11	箕輪チャレンジ型推計で2025年までに700人程度の減少.....	19
II-12	今後も15歳未満は減少、65歳以上は増加.....	20
II-13	これからのまちづくりは、施策の取捨選択が必要.....	20

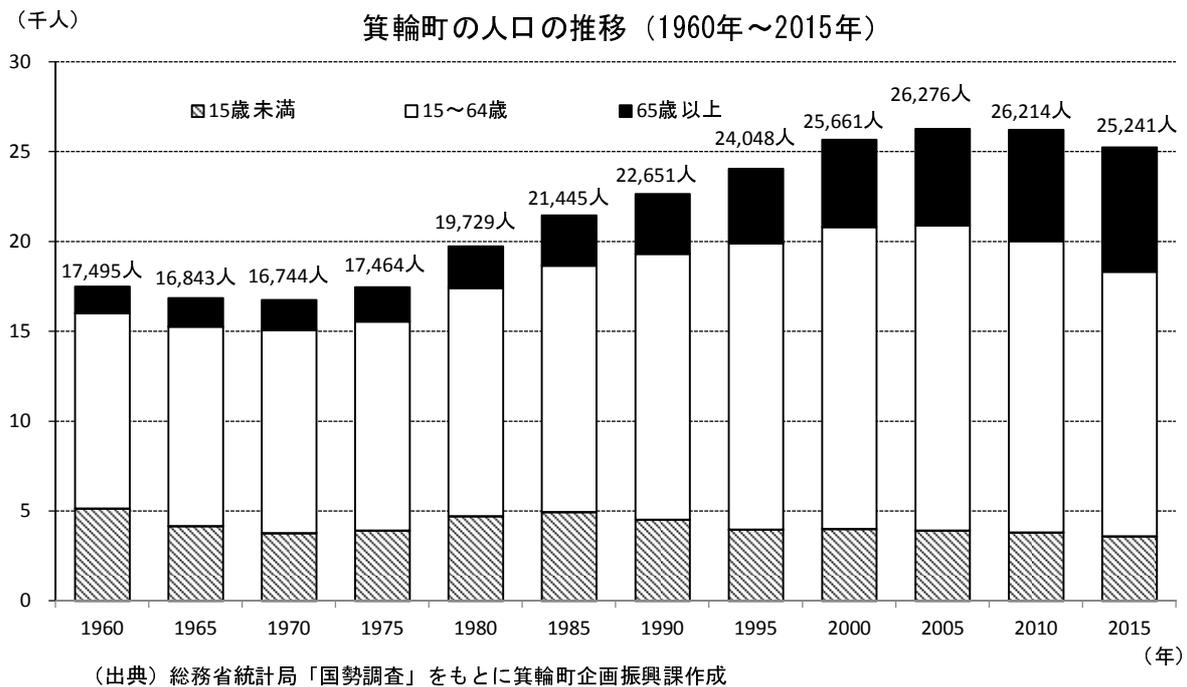
【参考】

人口ビジョンで用いた将来人口推計方法.....	21
-------------------------	----

I 人口現状の分析

～町人口の増減から見える課題～

I-1 これまでの町人口の推移



2005年をピークに人口減少が続いている

I-2 1980年以降の大幅な人口増加

郡内市町村等の人口増加率 (1980年～2015年)

市町村名	1980年 (人)	2015年 (人)	増加率 (%)
上伊那郡	174,844	184,305	5.4
伊那市	67,544	68,271	1.1
駒ヶ根市	31,179	32,759	5.1
辰野町	23,894	19,770	△ 17.3
箕輪町	19,729	25,241	27.9
飯島町	10,515	9,530	△ 9.4
南箕輪村	8,877	15,063	69.7
中川村	5,524	4,850	△ 12.2
宮田村	7,582	8,821	16.3
下諏訪町	26,574	20,236	△ 23.9

県内市町村の順位別人口増加率 (1980年～2015年)

順位	市町村名	1980年 (人)	2015年 (人)	増加率 (%)
1	南箕輪村	8,877	15,063	69.7
2	御代田町	9,851	15,184	54.1
3	山形村	5,578	8,395	50.5
4	軽井沢町	14,195	18,994	33.8
5	松川村	7,496	9,948	32.7
6	箕輪町	19,729	25,241	27.9
7	茅野市	43,942	55,912	27.2
8	安曇野市	75,209	95,282	26.7
9	白馬村	7,131	8,929	25.2
10	原村	6,125	7,566	23.5
参考	日本	117,060,396	127,094,745	8.6
	長野県	2,083,934	2,098,804	0.7

1980年と比較すると人口は多いが、2005年をピークに人口減少に転じているため、増加率は低下 (2010年比マイナス5ポイント)。県内では上位2町村のみが増加し続けている。

I-3 2005年以降は人口減少

箕輪町と他市町村等との人口増減率の5年ごとの比較(1980年～2015年)

(単位:%)

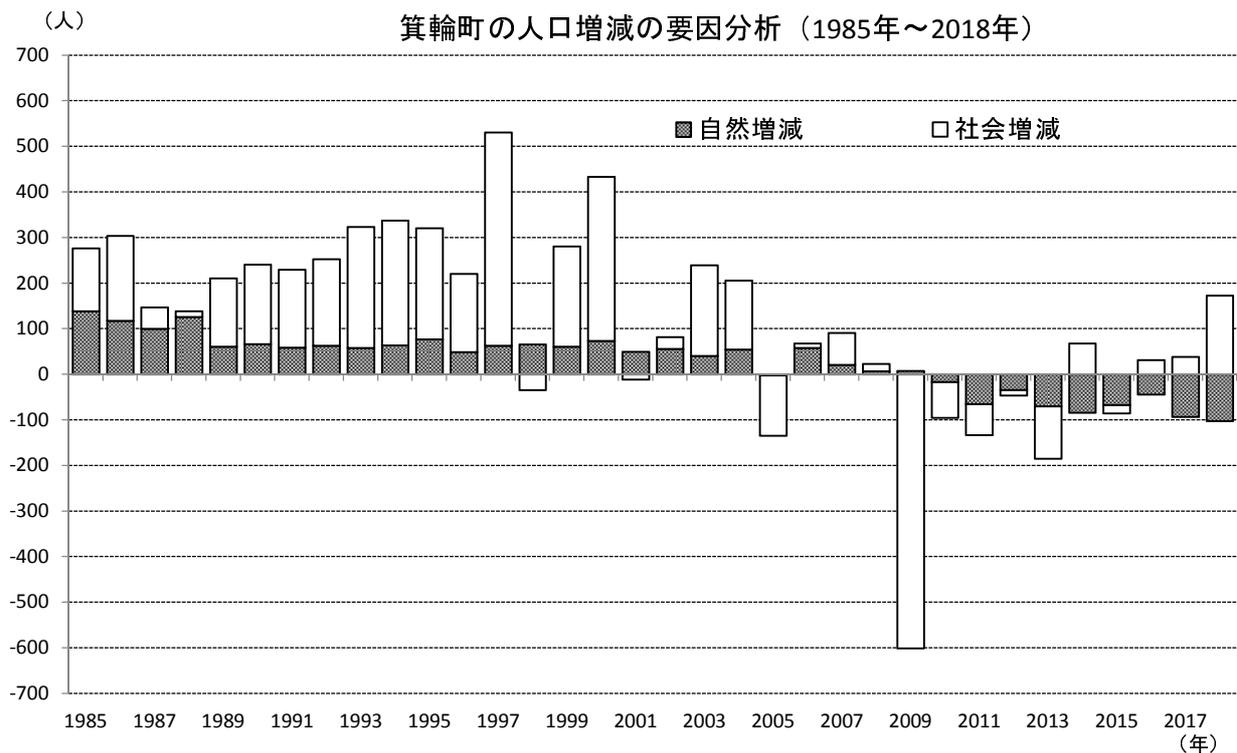
	箕輪町	日本	長野県	辰野町	飯島町	南箕輪村	中川村	伊那市	駒ヶ根市	宮田村	下諏訪町
1980-1985	8.70	3.41	2.54	0.17	1.81	11.64	0.98	3.85	3.90	4.17	△ 0.03
1985-1990	5.62	2.12	0.92	△ 0.14	0.90	7.63	△ 1.08	0.67	1.16	△ 0.05	△ 3.94
1990-1995	6.17	1.58	1.73	△ 2.96	1.74	13.75	△ 0.07	2.28	2.53	2.65	△ 3.86
1995-2000	6.71	1.08	0.97	△ 3.39	△ 0.86	10.48	△ 0.71	△ 0.94	2.19	7.27	△ 2.47
2000-2005	2.40	0.66	△ 0.86	△ 2.70	△ 2.98	1.61	△ 3.87	0.33	0.23	3.18	△ 4.46
2005-2010	△ 0.24	0.23	△ 1.99	△ 4.09	△ 6.32	6.78	△ 3.59	△ 0.98	△ 2.10	0.07	△ 5.82
2010-2015	△ 3.71	△ 0.75	△ 2.49	△ 5.45	△ 3.76	3.58	△ 4.41	△ 3.96	△ 2.77	△ 1.70	△ 6.02

(出典) 総務省統計局「国勢調査」をもとに箕輪町企画振興課作成

(注) 箕輪町より増加率の高い箇所の数字を白抜きとした。

2010年～2015年では減少率が拡大し、日本、長野県よりも減少率が高くなっている。
2015年～2019年は、減少率は大きく改善(参考値: 2015～2019年 △0.43 p13 II-1 参照)。

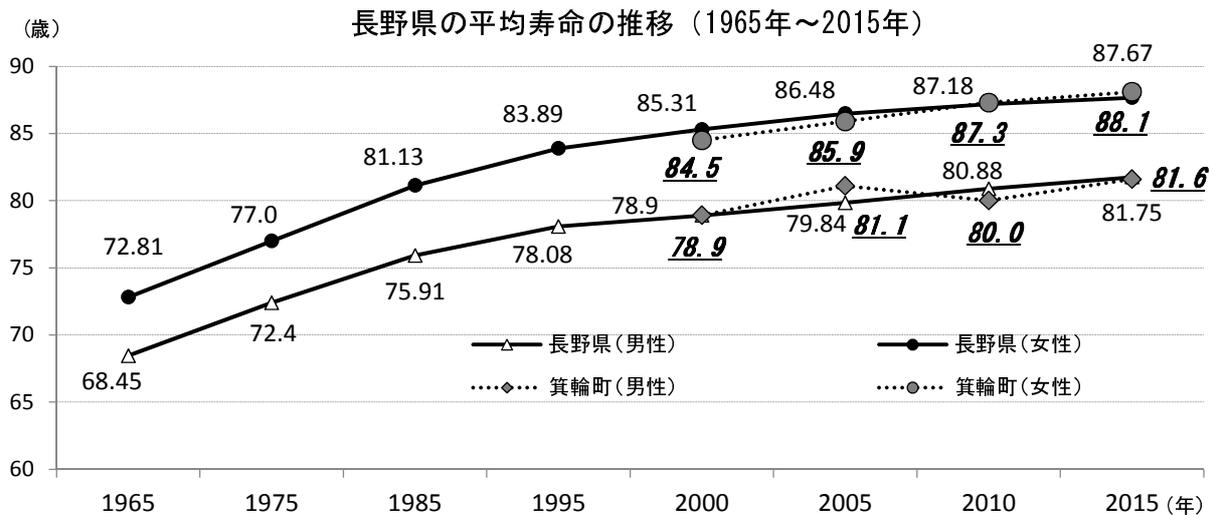
I-4 依然として自然減 近年は社会増



(出典) 長野県毎月人口異動調査を基に箕輪町企画振興課作成

2010年以降は自然減が続いている。社会減が続いていたが、2016年からは社会増に転じている。

I-5 平均寿命の伸び率は鈍化

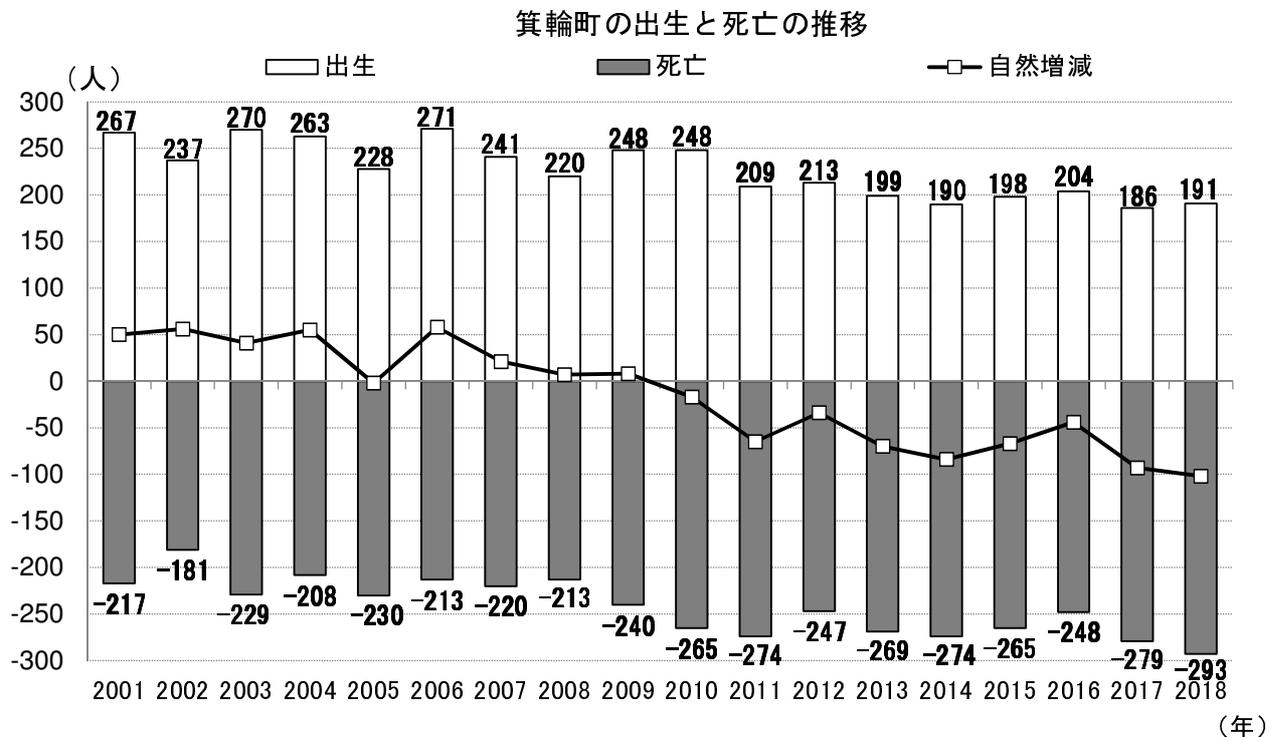


(出典)厚生労働省大臣官房統計情報部「都道府県別生命表の概況」をもとに箕輪町企画振興課作成

(注) 長野県データとしたのは市町村別では長期にわたるデータがないため。

数字に下線のあるものが箕輪町のデータ

平均寿命は延びているが、2000年以降は伸び率が鈍化している。町の男性平均寿命は、横ばい傾向にある。

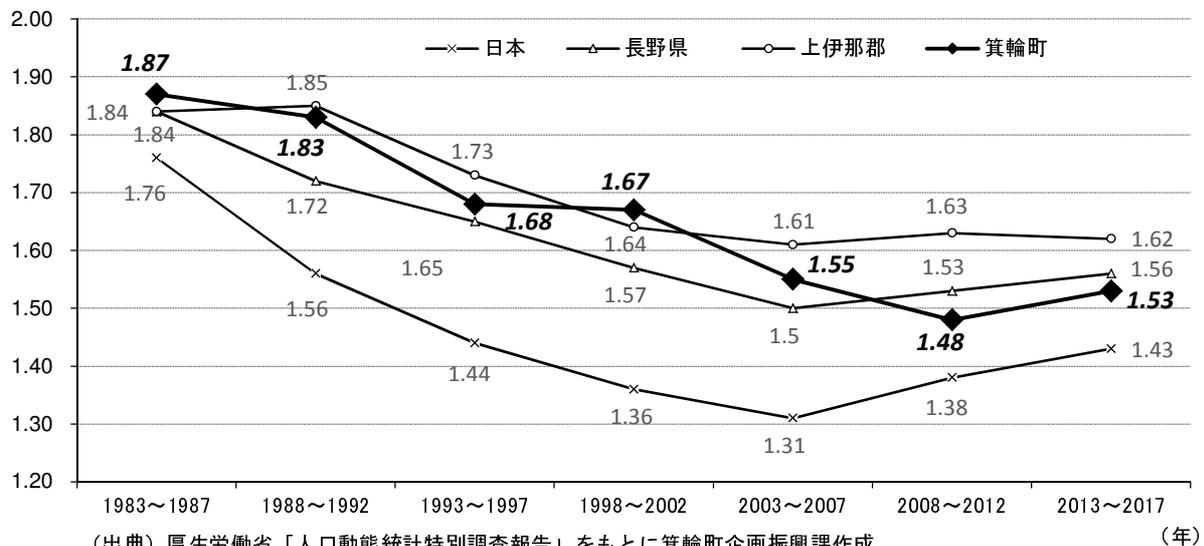


(出典) 長野県毎月人口異動調査を基に箕輪町企画振興課作成

2010年以降は一時的に出生数が増加しても、死亡数が上回っていることから自然減が続いている。

I-6 近年は出生率が上昇

箕輪町の合計特殊出生率の推移（1983年～2017年）



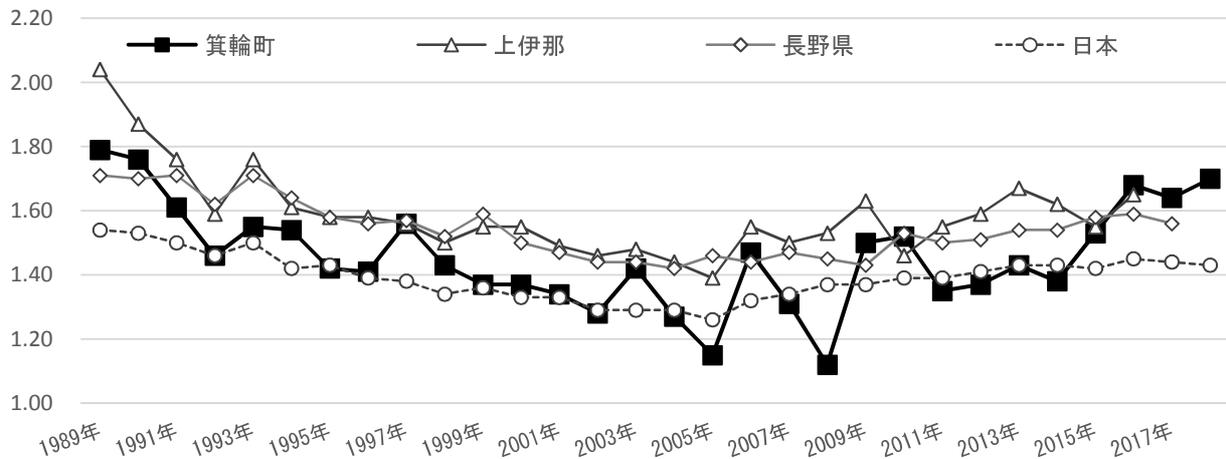
（出典）厚生労働省「人口動態統計特別調査報告」をもとに箕輪町企画振興課作成。

（年）

（注） 1 長野県、上伊那郡、箕輪町の2012年までの合計特殊出生率はベイズ推計を用いた。

2 日本の合計特出生率は、1983年から1997年は公表値の5年平均の値、1998年から2012年まではベイズ推計の値を用いた。

期間合計特殊出生率の推移



表_期間合計特殊出生率の推移

	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
箕輪町	1.52	1.35	1.37	1.43	1.38	1.53	1.68	1.64	1.70
上伊那	1.46	1.55	1.59	1.67	1.62	1.55	1.65		
長野県	1.53	1.50	1.51	1.54	1.54	1.58	1.59	1.56	
日本	1.39	1.39	1.41	1.43	1.43	1.42	1.45	1.44	1.43

（出典）グラフ・表共に長野県「衛生年報」をもとに箕輪町企画振興課作成

2015年以降、町の出生率は上昇傾向にあり、2016年は県、上伊那を上回っている。

1-7 20歳代の出生率が県・郡平均を下回る

母の年齢階級別出生率(人口対千)

箕輪町

	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳
1998～2002	3.2	46.4	121.8	119.6	37.4	4.4	0.1
2003～2007	5.6	42.6	100.8	107.7	48.1	5.9	0.1
2008～2012	3.1	29.1	97.9	103.4	51.8	10.2	0.3
2013～2017	4.6	31	92.1	112.2	51.8	10.4	0.5

(注) 県・郡のいずれの平均も下回る数値を白抜きとしている

長野県

	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳
1998～2002	4.1	44.2	111.5	111.8	37.3	4.5	0.1
2003～2007	3.8	38.8	99.4	105.4	49.4	8.9	0.2
2008～2012	3.8	38.8	99.4	105.4	49.4	8.9	0.2
2013～2017	3.4	33.5	95	109.5	56.2	11.1	0.3

上伊那郡

	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳
1998～2002	3.9	45.0	120.5	117.7	36.8	4.4	0.1
2003～2007	4.4	44.8	111.9	108.5	46.6	5.1	0.1
2008～2012	3.4	39.5	111.5	110.6	51.2	9.0	0.2
2013～2017	3.2	35.3	100.6	112.2	57.4	11.4	0.3

(出典) 1998～2012年は、厚生労働省「人口動態統計特別調査報告書」をもとに箕輪町企画振興課作成
2013～2017年は、厚生労働省「人口動態調査」と「毎月人口移動調査(10月1日)」と「長野県衛生年報」をもとに算出

(注) 2013年～2017年は参考数値
2013～2017年の範囲で14歳以下の出産数は15～19歳に含んだ

**4つの階級で、県や上伊那より出生率が下回っていて差も大きい。
理由のひとつとして、初婚年齢が平均に比べて高いことがあげられる。**

[H25 初婚年齢：町平均 29.6歳、全国平均 29.3歳]

(出典) 厚生労働省「人口動態統計」(平成25年)の特別集計による

I-8 39歳までの女性人口の減少に合わせ出生数も減少

箕輪町の出産年齢人口と出生数の推移

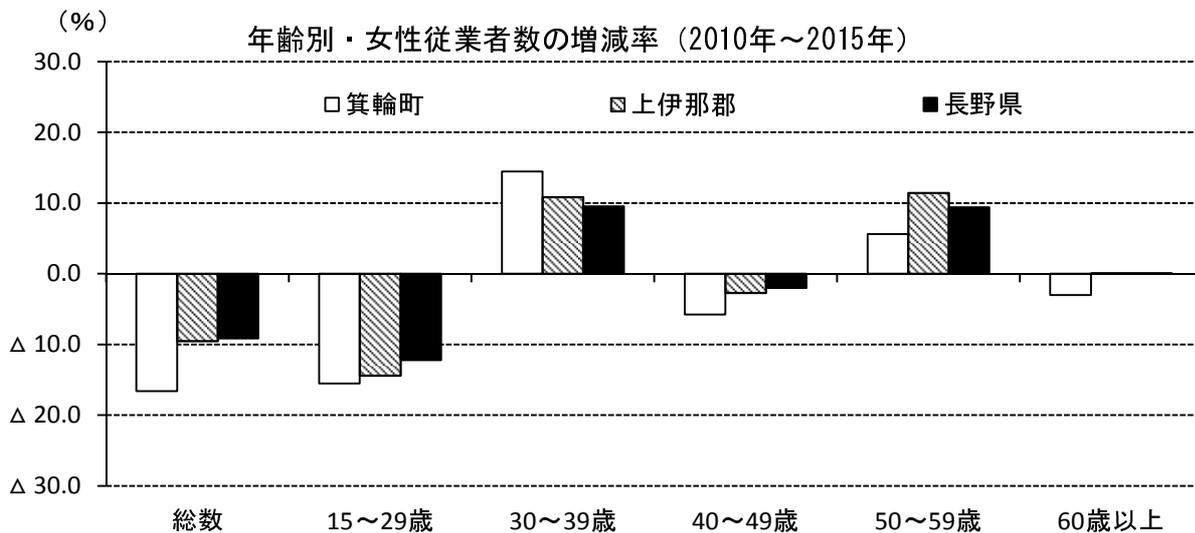
	15～29歳		30～39歳		40～49歳	
	女性人口 (人)	出生数 (人)	女性人口 (人)	出生数 (人)	女性人口 (人)	出生数 (人)
1998年～2002年(a)	2,490.0	129.8	1,604.4	112.0	1,616.6	3.2
2003年～2007年(b)	2,247.4	105.0	1,880.2	132.0	1,489.8	4.2
2008年～2012年(c)	1,851.4	74.6	1,828.2	132.4	1,567.6	8.8
2013年～2017年(d)	1,568.8	67.6	1,491.8	116.8	1,739.6	10.2
【参考値】2018年(e)	1,495.0	70.0	1,329.0	111	1,820.0	14.0
c-b増減率(%)	△17.6	△29.0	△2.8	0.3	5.2	109.5
d-c増減率(%)	△15.3	△9.4	△18.4	△11.8	11.0	15.9

(出典) 長野県「衛生年報」、「人口動態調査」をもとに箕輪町企画振興課作成

(注) a～dの各期間の人口数、出生数は5年間の平均値。人口は各年10月1日を基準とした。

2013年以降の39歳までの女性人口、出生数がともに減少傾向だが、2018年の15～29歳、40～49歳の出生数は増加している(参考値)。しかしながら、女性人口が減っているため、出生数は減少が続いている。

I-9 30歳未満・女性従業員の減少が顕著



(出典) 総務省統計局「国勢調査報告」をもとに箕輪町企画振興課作成

2005年～2010年と比較すると30～39歳までの女性従業員数はリーマンショック後の反動から増加に転じたと考えられるが、15～29歳女性は減少傾向のまま変わらない。

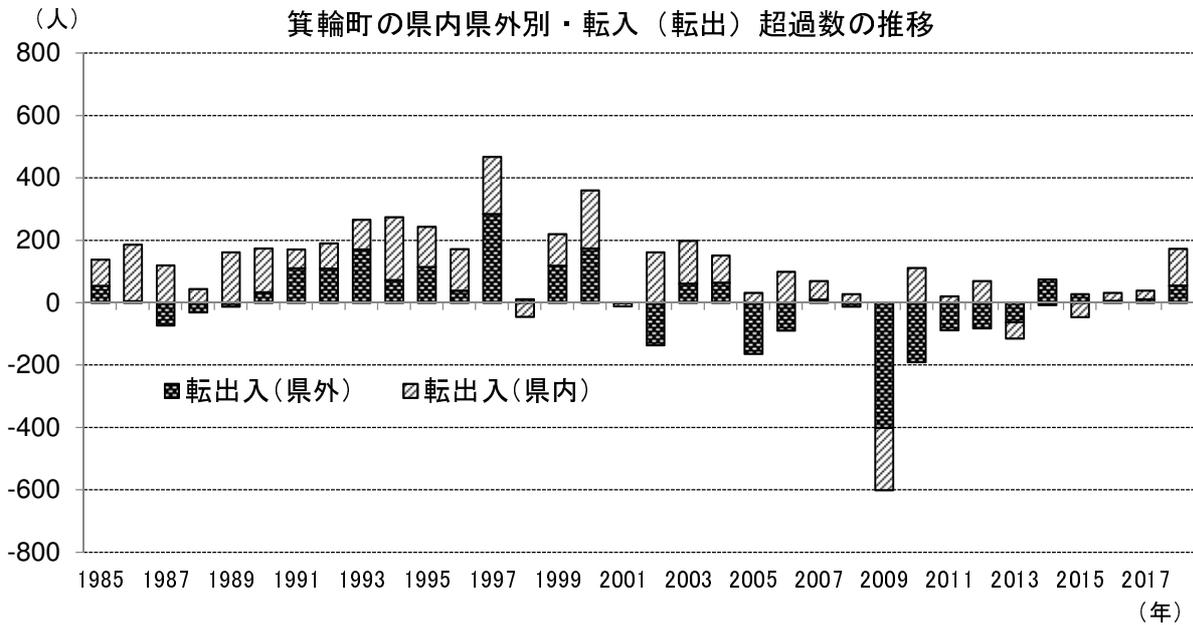
産業に対する 15～39 歳女性従業者数と割合（2015 年）

	全産業 女性従業者数 (人)	製造業 女性割合	県との差	医療、福祉 女性割合	県との差
箕輪町	1,624	38.5%	21.4%	20.8%	-4.8%
伊那市	4,585	20.1%	2.9%	24.4%	-1.2%
駒ヶ根市	2,403	27.5%	10.3%	24.6%	-1.0%
辰野町	1,018	44.5%	27.3%	18.7%	-6.9%
飯島町	518	52.7%	35.5%	19.3%	-6.3%
南箕輪村	870	27.4%	10.2%	21.5%	-4.1%
中川村	193	17.1%	-0.1%	29.0%	3.4%
宮田村	531	46.3%	29.2%	10.5%	-15.0%
上伊那	11,742	29.4%	12.2%	22.5%	-3.1%
長野県	139,517	17.2%	—	25.6%	—
飯田市	7,711	20.8%	3.7%	27.5%	1.9%
塩尻市	4,068	22.1%	5.0%	24.7%	-0.9%
茅野市	3,673	28.2%	11.0%	22.6%	-3.0%
諏訪市	4,099	17.2%	0.0%	26.3%	0.7%
岡谷市	2,963	28.4%	11.3%	25.3%	-0.3%
下諏訪町	1,125	22.9%	5.8%	31.5%	5.9%
富士見町	887	26.5%	9.3%	31.1%	5.5%
原村	313	15.0%	-2.1%	23.3%	-2.3%
諏訪	13,060	23.9%	6.7%	25.7%	0.1%

（出典）総務省統計局「国勢調査報告」をもとに箕輪町企画振興課作成

町の産業構造を反映し、製造業に従事する女性の割合が高い。

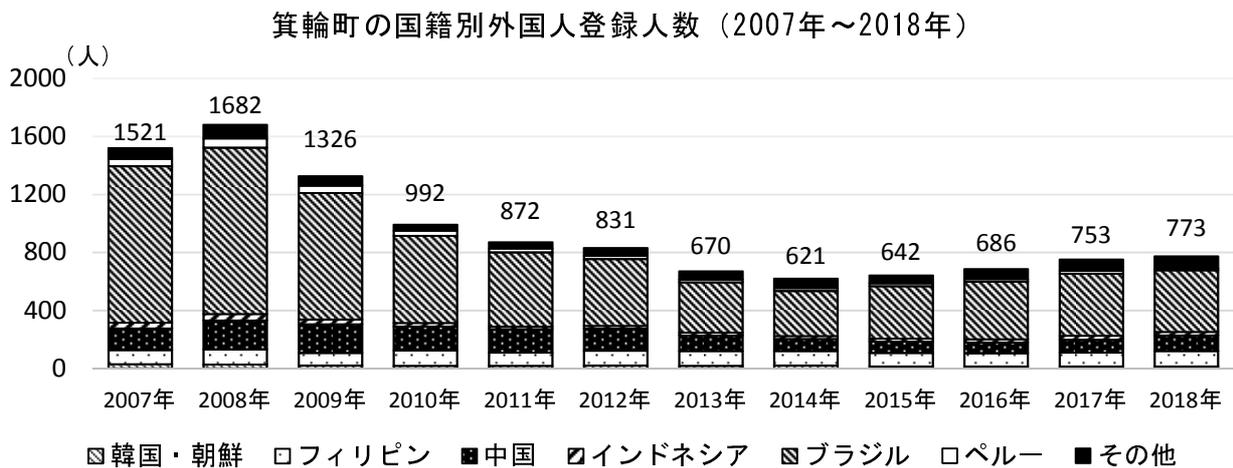
I-10 近年は県内外ともに転入超過



(出典) 長野県毎月人口異動調査を基に箕輪町企画振興課作成

リーマンショックにより転出超過が続いたが、2016年からは県内外ともに転入超過となっている。

I-11 外国人も増加傾向



(出典) 「箕輪町町勢要覧」等を基に箕輪町企画振興課作成

直近10年では2014年に最低を記録。2015年以降、外国人登録数は再び増加傾向にあるが、景気の動向に左右されやすいことから、今後の動きは不透明。

I-12 若年層の県外転出傾向が続く

転入－転出（2018年）

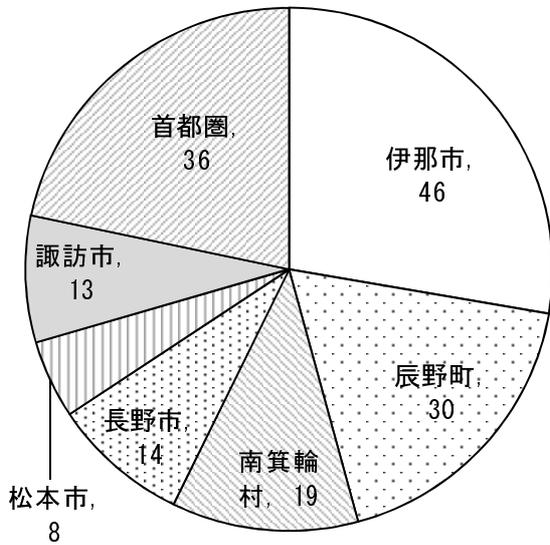
年齢	郡内	県内 (郡内除く)	県外	国外	合計
0-4歳	5	10	2	2	19
5-9歳	6	4	1	1	12
10-14歳	2	△ 2	4	0	4
15-19歳	7	3	△ 12	0	△ 2
20-24歳	22	11	△ 23	1	11
25-29歳	2	6	△ 7	3	4
30-34歳	15	15	△ 7	2	25
35-39歳	3	△ 8	3	2	0
40-44歳	△ 3	21	△ 4	4	18
45-49歳	3	△ 1	△ 10	3	△ 5
50-54歳	4	5	△ 2	0	7
55-59歳	4	0	4	4	12
60-64歳	5	△ 3	1	1	4
65-69歳	3	1	1	1	6
70-74歳	△ 5	△ 1	0	1	△ 5
75-79歳	△ 4	0	0	0	△ 4
80-84歳	△ 2	0	1	0	△ 1
85-90歳	△ 1	2	1	0	2
90歳以上	6	1	△ 1	0	6
合計	72	64	△ 48	25	113

（出典） 箕輪町住民基本台帳を基に箕輪町企画振興課作成

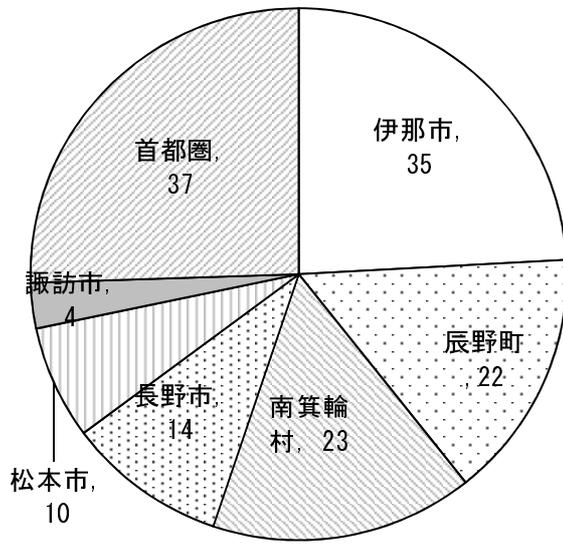
20歳代を中心とした若年層の県外転出超過は課題のままだが、郡内・県内の転入は大きく改善されている。

I-13 25~34歳は郡内市町村と転出入をやり取り

25-34歳の主な転入元市町村



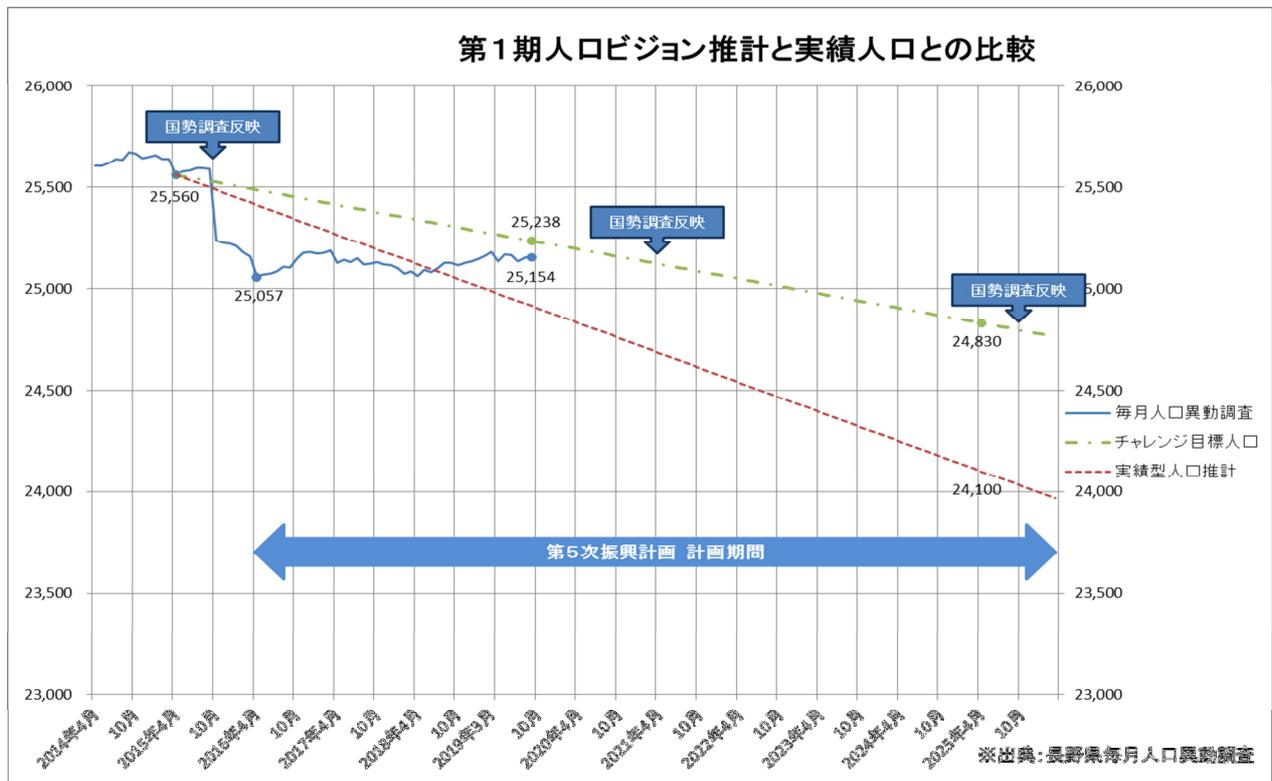
25-34歳の主な転出先市町村



(出典) 2018年住民基本台帳を基に箕輪町企画振興課作成

半数以上が、郡内市町村で転出入をやり取りする状況は変わらない。隣接する南箕輪村とは本町からの転出超過となっている。

I-14 第1期人口ビジョンのチャレンジ目標に近づいている



2019年10月時点で第1期人口ビジョンのチャレンジ目標を84人下回っている
(ただし、2015年10月の国勢調査反映値が推計値と比較して約300人少ない)

I-15 箕輪町人口の自然増減と社会増減の課題

■第1期における人口増加・維持の主な要因

- 合計特殊出生率の上昇：1.38（2014年）→1.70（2018年）
- 社会増（主に郡内・県内の転入超過）：+212人（2016-2019年の4ヵ年計）
- 外国人住民の増：621人（2014年）→773人（2018年）

■第1期における人口減少の主な要因

- 女性生産年齢人口の減少：▲357人〔7,232人（2014年）→6,875人（2019年）〕
（参考：男性生産年齢人口：▲105人〔7,712人（2014年）→7,607人（2019年）〕）
- 死亡数の増加：194人（2014年）→292人（2018年）
- 自然減（主に死亡数の増加）：▲311人（2016-2019年の4ヵ年計）

■現状と今後の課題

【現状】

- 自然減の拡大：出生率は上昇傾向にあるが、15～49歳の女性人口が減少していることから、出生数は増えないと予測される。一方で、団塊の世代を中心に人口の多い年代の高齢化が進むことから、今後死亡者数のさらなる増加が見込まれ、自然減の数は大きくなると予測される。
- 若年層の県外転出超過の傾向も続いている。また、25歳～34歳では半数以上を郡内市町村で転出をやり取りしている
- 2015年以降の郡内、県内間の社会増は大きいですが、2008年から2015年にかけて大きな人口減少がみられたように、経済動向に左右される傾向にある。あわせて、外国人住民数の変動の可能性もある。

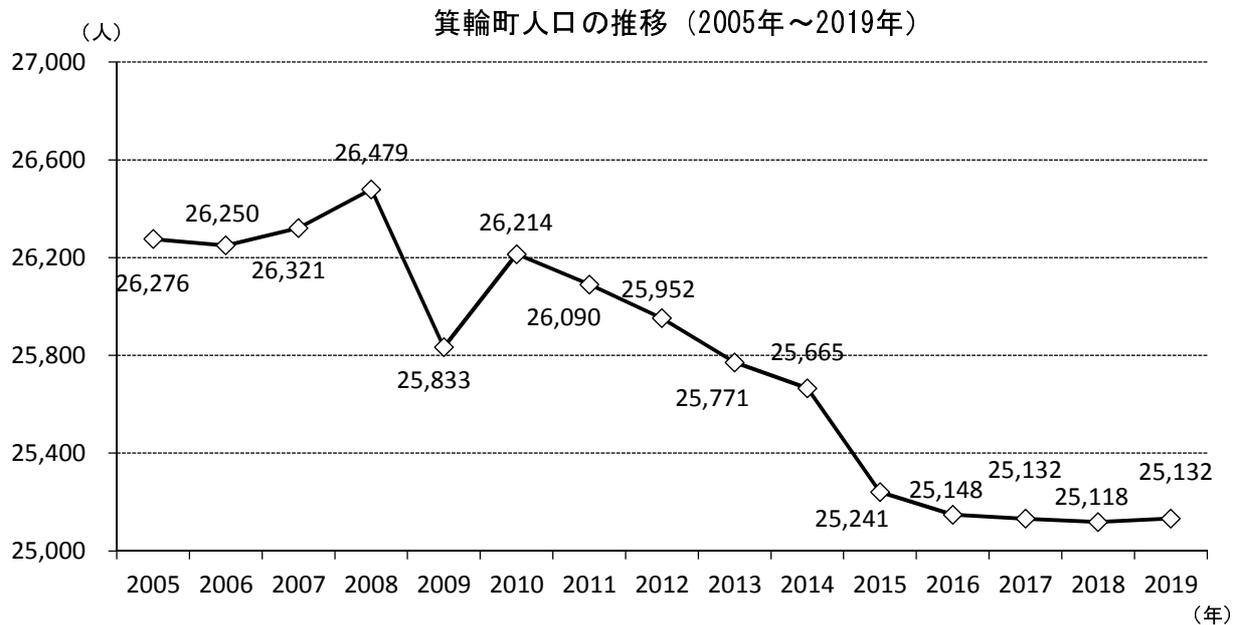
【課題】

- 今後増大すると予測される自然減に対応するために、女性人口や子育て世代の増加策が必要
- 定住地として選ばれる魅力あるまちづくりを続ける必要
- 経済動向により、社会増減に大きな変動があった場合にも対応できるような社会基盤づくりが必要

Ⅱ 将来人口推計

～将来人口の推計結果と今後の対応～

II-1 近年の人口は横ばい



リーマンショック後の2008年以降人口減少が続いていたが、2016年から人口を維持している。

II-2 2015年実績人口は、社人研推計を下回る*

注) 社人研…国立社会保障・人口問題研究所

(単位: 人)

	2015年				2015年		
	実績a	社人研推計b	差(a-b)		実績a	社人研推計b	差(a-b)
0～4歳	1,038	1,159	△ 121	50～54歳	1,529	1,511	18
5～9歳	1,267	1,209	58	55～59歳	1,460	1,465	△ 6
10～14歳	1,300	1,253	47	60～64歳	1,657	1,650	7
15～19歳	1,129	1,213	△ 85	65～69歳	1,960	1,942	18
20～24歳	881	1,243	△ 362	70～74歳	1,551	1,561	△ 9
25～29歳	1,197	1,397	△ 200	75～79歳	1,213	1,233	△ 21
30～34歳	1,354	1,353	1	80～84歳	1,022	1,062	△ 40
35～39歳	1,770	1,750	20	85～89歳	776	768	8
40～44歳	2,044	1,937	107	90歳以上	397	456	△ 59
45～49歳	1,698	1,677	21				
				総数	25,241	25,839	△ 598

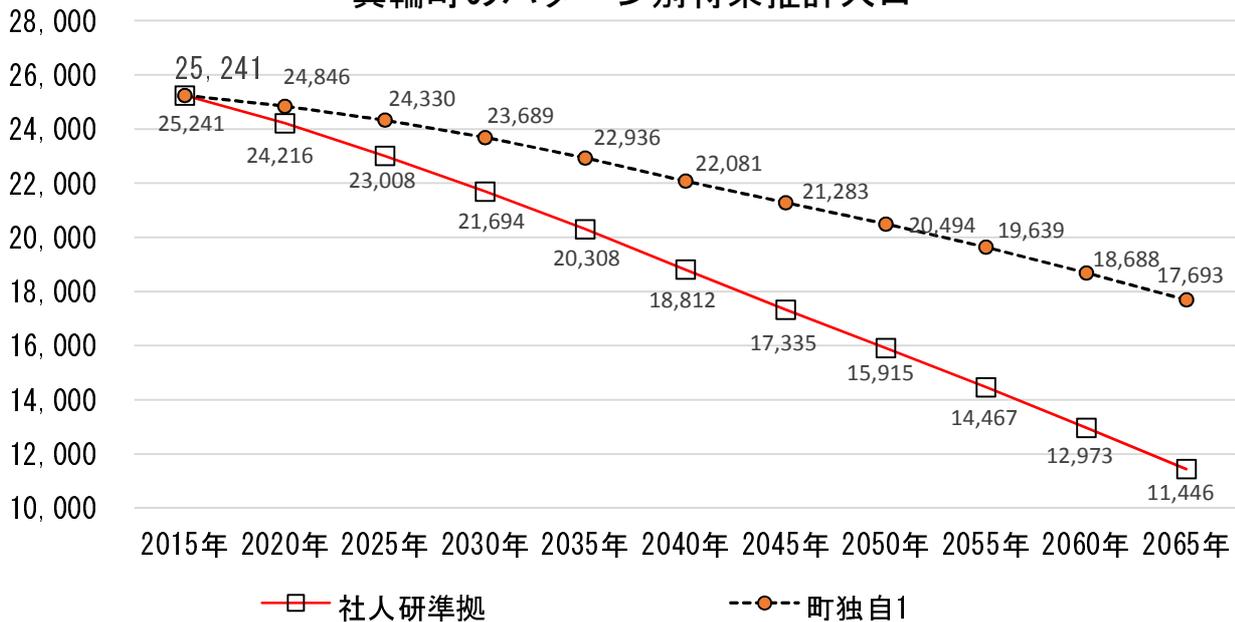
※社人研推計は、2013年（平成25年）3月1日発表による推計値

※実績数値は年齢不詳を案分した数値

2015年実績人口（確定値）は社人研推計を598人下回る

II-3 2025年推計人口は社人研推計で23,000人、町独自推計で24,300人の予測

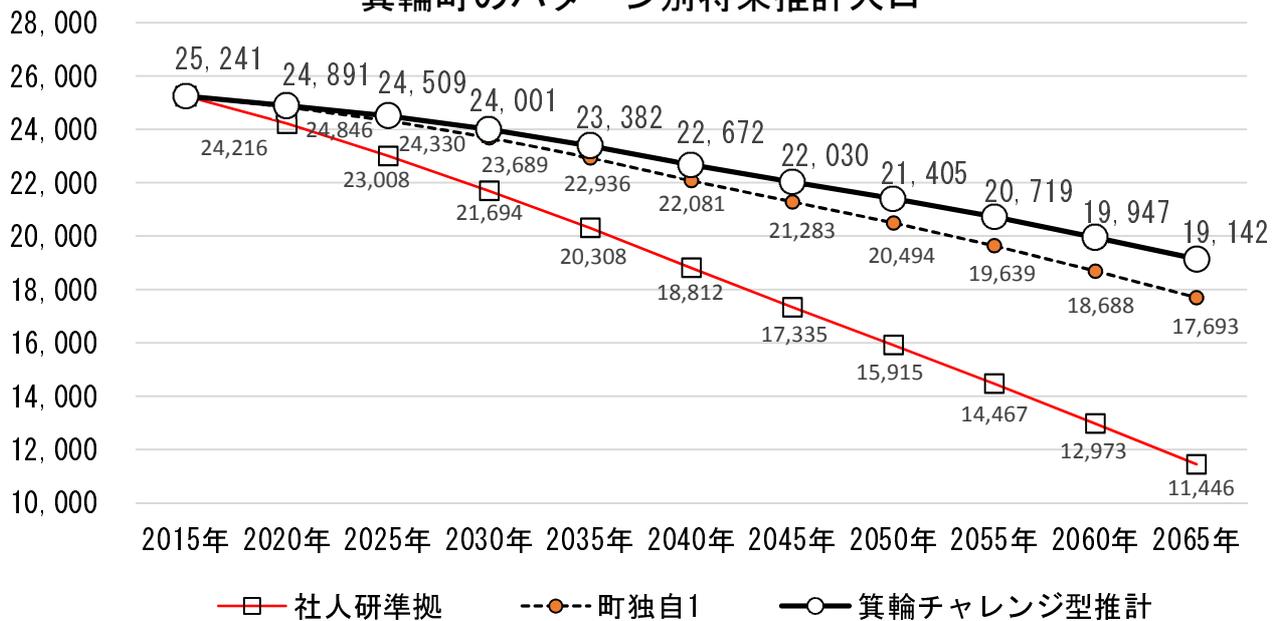
箕輪町のパターン別将来推計人口



※上段数字が封鎖人口推計による値、下段が社人研推計準拠による値

II-4 出生数・転入者数の増加施策の実施で2025年に24,500人程度

箕輪町のパターン別将来推計人口



施策（箕輪チャレンジ）により、人口減少を緩やかなものにする事が期待できる。

II-5 2025年には合計特殊出生率を1.80に

	2015年	2020年	2025年
合計特殊出生率	1.53	1.65	1.80
年間出生数※	196人	180人	170人
15～49歳女性人口	4,750人	4,580人	4,245人

※2020年と2025年の出生数については、2015年～2018年の出生数の平均値を用い、2015年の15～49歳の女性人口と年間出生数の割合から算出した仮定値である。2025年の合計特殊出生率は、国が掲げる「希望出生率」(出典) 総務省統計局「国勢調査」、長野県衛生年報を基に箕輪町企画振興課作成

女性人口が減少しているため、年間の出生数は増えない

II-6 移住定住対策により1年で50人、10年間で500人増加

	実績値※			箕輪チャレンジ型推計
	2017年	2018年	2019年※	
Uターン施策(県外)	8人	14人	6人	14人/年 若年者 : 4人 子育て世帯 : 2世帯8人 退職後夫婦 : 1世帯2人
Iターン施策(県外)				9人/年 子育て世帯 : 2世帯7人 その他 : 1世帯2人
空き家施策(県外)				2人/年 1世帯2人
定住施策(郡内・県内)	52人	81人	57人	25人/年
計	60人	95人	63人	50人/年

※実績値は、みのわの魅力発信室で関与した人数

※2019年度は2020年1月末日現在(10ヶ月間)

若年層、女性、子育て世代を中心に人口増の施策を展開することで、人口減少を緩やかなものにする可能性がある。

II-7 箕輪チャレンジで取り組む施策

【第5次振興計画の目指す姿】

みんなで創る、未来につながる、暮らしやすい箕輪町
～人口減少時代への挑戦・箕輪チャレンジ～

項目	対象者	施策
現在の暮らしやすさの維持	全町民	<ul style="list-style-type: none"> ■人のつながりと協働のまちづくり ■安全・安心の推進 ■快適な生活環境の整備 ■地域ぐるみの健康づくり ■共に生き、支え合う福祉のまちづくり ■地域への愛着と誇りを育てる教育の推進 ■景観や自然環境の保全・育成 ■安全性・利便性の高い都市基盤整備
出生数の増加	若年者 子育て世帯	<ul style="list-style-type: none"> ■出会い・結婚の支援 ■妊娠・出産の支援 ■育児・子育て支援 ■地域で支える子育て環境づくり
転入者の増加	転入者	<ul style="list-style-type: none"> ■移住定住の推進 ■知名度の向上・交流人口の増加 ■雇用の創出と人材の育成 ■産業の活性化 ■輝く産業の育成 ■生活を支える利便性の確保 ■地域への愛着と誇りを育てる教育の推進
	若年者	<ul style="list-style-type: none"> ■雇用の創出と人材の育成 ■産業の活性化 ■若者・女性に魅力あるまちづくり
	子育て世帯	<ul style="list-style-type: none"> ■雇用の創出と人材の育成 ■産業の活性化 ■育児・子育て支援 ■地域で支える子育て環境づくり
	退職者世帯	<ul style="list-style-type: none"> ■高齢者の生きがいづくり
転出者の抑制	転出者	<ul style="list-style-type: none"> ■雇用の創出と人材の育成 ■産業の活性化 ■輝く産業の育成

II-8 箕輪チャレンジで、15歳未満人口割合1割以上をキープ

パターン別将来人口推計の年齢別人口と割合

	2015年		2025年		2040年	
	人口(人)	割合(%)	人口(人)	割合(%)	人口(人)	割合(%)
実績人口	25,241	100.0				
0～14歳人口	3,605	14.3				
15～64歳人口	14,717	58.3				
65歳以上人口	6,919	27.4				
社人研推計			23,008	100.0	18,810	100.0
0～14歳人口			2,734	11.9	1,766	9.4
15～64歳人口			13,027	56.6	9,386	49.9
65歳以上人口			7,247	31.5	7,658	40.7
町独自1			24,330	100.0	22,081	100.0
0～14歳人口			2,989	12.3	2,586	11.7
15～64歳人口			14,011	57.6	11,675	52.9
65歳以上人口			7,330	30.1	7,819	35.4
箕輪チャレンジ型推計			24,509	100.0	22,672	100.0
0～14歳人口			3,105	12.7	2,896	12.8
15～64歳人口			14,069	57.4	11,941	52.7
65歳以上人口			7,335	29.9	7,835	34.6

15歳未満人口の割合を2025年と同水準に保つためにも箕輪チャレンジの効果的な展開が必要。

II-9 区ごとの将来推計人口

移動率実績型推計による 2040 年までの各区の推計人口と 2015 年からの増減率

	沢区	大出区	八乙女区	下古田区	上古田区	中原区	松島区	木下区	富田区	中曽根区	三日町区	福与区	長岡区	南小河内区	北小河内区
2015年(人)	4,114	2,051	500	304	721	355	6,352	5,522	380	334	990	739	1,176	627	1,076
2025年推計(人)	3,773	1,979	424	242	635	346	5,874	4,841	328	289	1,167	631	945	485	1,051
2025-2015 増減率(%)	△8.3	△3.5	△15.2	△20.4	△11.9	△2.5	△7.5	△12.3	△13.7	△13.5	17.9	△14.6	△19.6	△22.6	△2.3
2040年推計(人)	3,061	1,634	285	165	494	281	4,827	3,660	223	185	1,586	476	623	351	960
2040-2015 増減率(%)	△25.6	△20.3	△43.0	△45.7	△31.5	△20.8	△24.0	△33.7	△41.3	△44.6	60.2	△35.6	△47.0	△44.0	△10.8

国土技術政策総合研究所「人口・世帯予測ツール」を用いた推計結果から表を作成

区ごとの将来人口を推計した場合、2040 年には多くの区で、3 割以上の減少率という推計結果*となる。中には 4 割以上の減少率と推計される区もある。

箕輪チャレンジ型推計による 2040 年までの各区の推計人口と 2015 年からの増減率

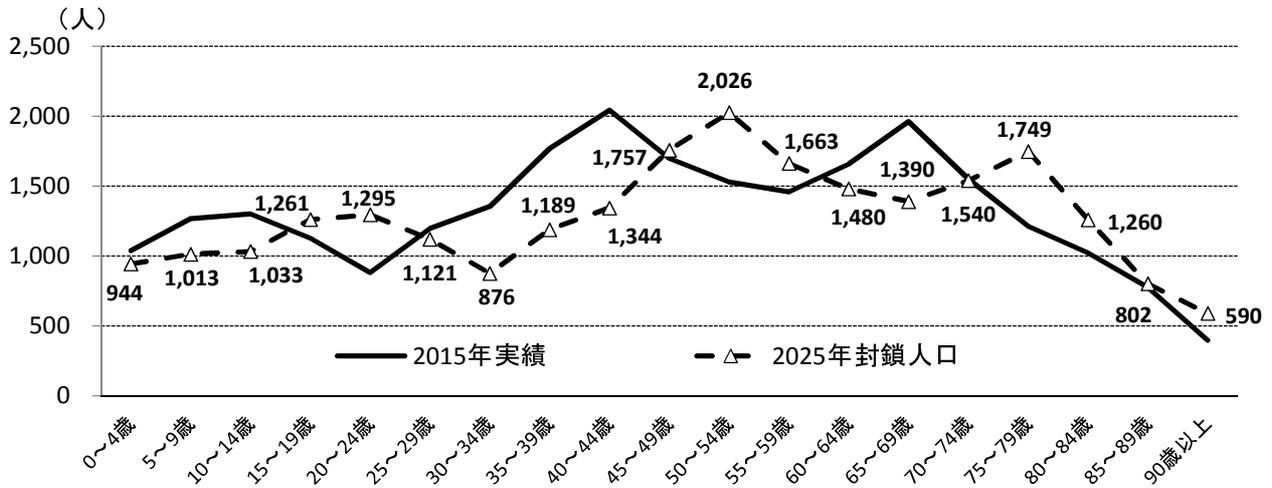
	沢区	大出区	八乙女区	下古田区	上古田区	中原区	松島区	木下区	富田区	中曽根区	三日町区	福与区	長岡区	南小河内区	北小河内区
2015年(人)	4,114	2,051	500	304	721	355	6,352	5,522	380	334	990	739	1,176	627	1,076
2025年箕輪チャ レンジ型推計(人)	4,019	2,108	452	258	676	369	6,257	5,156	349	308	1,243	672	1,007	517	1,119
2025-2015 増減率(%)	△2.3	2.8	△9.7	△15.2	△6.2	3.8	△1.5	△6.6	△8.1	△7.8	25.6	△9.1	△14.4	△17.6	4.0
2040年箕輪チャ レンジ型推計(人)	3,689	1,969	343	199	595	339	5,818	4,411	269	223	1,912	574	751	423	1,157
2040-2015 増減率(%)	△10.3	△4.0	△31.3	△34.6	△17.4	△4.6	△8.4	△20.1	△29.3	△33.2	93.1	△22.4	△36.2	△32.5	7.5

2025 年、2040 年の区ごとの将来人口推計から得られた人口構成比を用いて、箕輪チャレンジを実施した場合の将来人口を算出すると、多くの区で減少率が改善するという結果となる。

町全体の動向及び区ごとの動向を勘案しながら、施策を展開する必要がある。

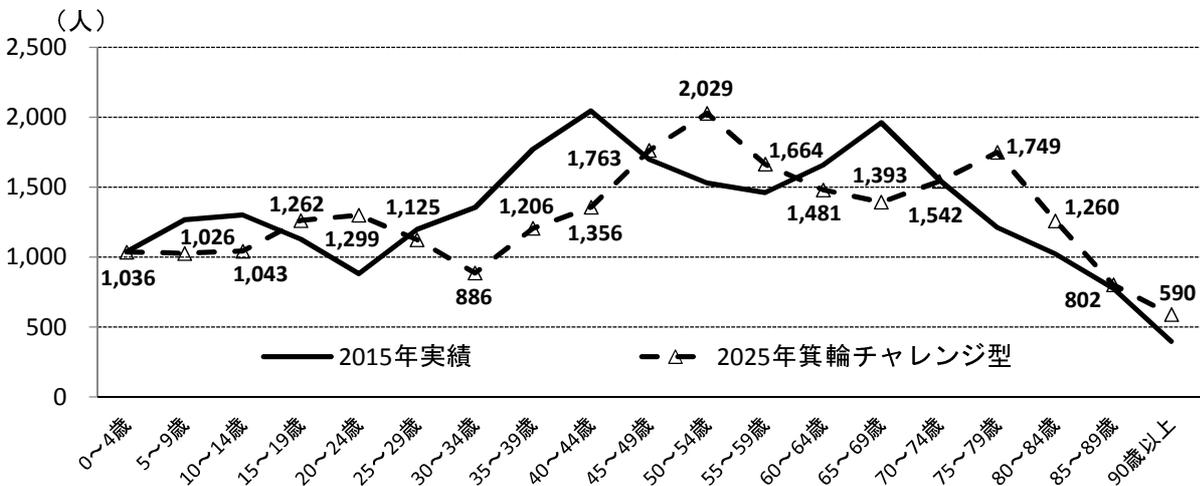
II-10 社会移動がないと仮定すると 2025 年までに 900 人程度減少

箕輪町の 5 歳階級別人口の推移 1 (2015 年→2025 年)



II-11 箕輪チャレンジ型推計で 2025 年までに 700 人程度の減少

箕輪町の 5 歳階級別人口の推移 2 (2015 年→2025 年)



箕輪チャレンジの実施により、2025 年までに 75 歳未満の各世代で人口増加を見込む。封鎖人口仮定の場合と比較すると、180 人程度人口減少を抑制できる結果となる。

II-12 今後も15歳未満は減少、65歳以上は増加

15歳未満の年少人口は、箕輪チャレンジを実施しなかった場合、2040年には1割を切るという推計結果が出ており、箕輪チャレンジによって、1割以上を維持する必要がある。

一方で、箕輪チャレンジ型によって人口減少に歯止めがかかっても2055年～2060年頃までは、65歳以上人口が増加するとの推計結果が出ている。

そうしたことから、少子高齢化の傾向は今後も変わらないことを念頭に置き、施策等を展開する必要がある。

箕輪チャレンジの効果により、年少人口の割合を1割以上で維持できることが期待される。

II-13 これからのまちづくりは、施策の取捨選択が必要

今後人口減少が拡大していくことは明らかである

【人口減少による課題】

- ・ 高齢者の増加に対する支え手の不足 → 社会保障費の増加
- ・ 生産年齢人口の減少による税収減 → 行政サービスの提供困難
インフラの整備・維持困難
- ・ 働き手の不足 → 企業の経営継続困難 → 税収減
- ・ 空き家の増加 → 地域環境の悪化
- ・ コミュニティの希薄化 → コミュニティの継続困難

【町の構造的課題】

- ・ 経済動向に左右される人口移動 → 景気低迷による人口減少の可能性

■行政

- ・ 人口減少に対応した施策の展開
- ・ まち・ひと・しごと総合戦略の展開

■区・常会・町民

- ・ 地域コミュニティの活性化
- ・ 町民参画による協働のまちづくり

みんなで創る、未来につながる、暮らしやすい箕輪町

人口ビジョンで用いた将来人口推計方法

本ビジョンの「町独自1」及び「箕輪チャレンジ型推計」は、社会増減がないと想定した封鎖人口（自然増減のみ、社会増減ゼロ）を採用し、推計を行った。

第1期では、2005年から2010年の移動率を用いていたが、2010年から2015年にかけての町の移動率は $\Delta 3.7\%$ と大きく、この率を基礎とすると、急速な人口減少が予測され、すでに2020年時点で500人以上低く見積もられると考えられる。

これは、2008年から2015年は景気低迷により大きな社会減がみられたが、景気の復調により2015年からは社会増に転じたことが理由である。

そこで、町の人口に大きな影響を与える今後の経済動向が不安定と予測されることから、社会増減を ± 0 とし、自然減のみを基礎に推計した。

また、将来の合計特出生率は、「町独自1」については、近年の町の実績を鑑み、合計特殊出生率が1.65程度で推移するものと仮定して推計を行い、箕輪チャレンジ型推計は、2025年に1.80程度になると見込んだ推計となっている。

なお、「社人研準拠」推計は、2010年－2015年の実績移動率を用いて推計を行っている。将来的な合計特殊出生率は社人研の推計に準拠したものである。